

## 松山東高生の日経STOCKリーグ最優秀賞の受賞について

- 1 平成28年2月25日(木)、「第16回日経STOCKリーグ」に応募した松山東高校のチームが最終審査会において、最優秀賞に内定した旨の連絡が、主催する日本経済新聞社から同校にあった。

※参加チーム数 1, 429チーム

(内訳：中学66チーム、高校691チーム、大学672チーム)

※参加人数 5, 587名

(内訳：中学258名、高校2,668名、大学2,661名)

- 2 日本経済新聞社が主催するこのコンテストは、生きた経済に触れ、社会を見る目を養い、自ら主体的に考え学ぶ力を身に付けることを目的としており、2月29日(月)にホームページ上で正式に発表され、3月12日(土)に東京の日経ビルで表彰式が行われた。また、3月20日～25日までアメリカ・ニューヨークへの研修旅行の機会が与えられた。

※内 容 中学・高校・大学生を対象とした株式学習コンテストで、1チーム3～5名で、主催者から提供される学習カリキュラムにより、経済・株式投資の基礎を学び、学習で得た知識を基にレポートを作成。一次審査、二次審査、最終審査を経て、賞が決定。

- 3 レポートの概要

○受賞レポートのタイトル

「Real×Future ～“質感”で彩る未来～」

○受賞生徒 杉田ひな子、青野沙耶、今村千春 (2年生：受賞当時は1年生)

○レポートの要旨

「日本は情報やサービスが重視され、モノのもつ価値が軽くなっている。しかし、そんな今だから、モノがもつ質感を大切にすべきではないだろうか。また、質感は顧客が直接触れて五感で感じるものであるため、企業は商品の安全性を重視し、顧客との信頼関係を築く必要がある。最終的に、私たちは企業と顧客の信頼関係を軸に、より質の良いモノを選んで買うということが豊かな社会のあり方であるという結論に達した。」

○審査委員講評

「“質感”という難しいテーマにチャレンジし、時代を巧く切った力作。テーマの具体化のためにアンケートを実施し、スクリーニングに際し女性の雇用や品質管理体制の充実度に着目した点などが高く評価された。選定銘柄のレポートも、各社の“五感”へのこだわりを企業の発信情報を使ってズバリ一言で表現しており、楽しく読めた。投資家に対し、“質感”を重視したモノづくりの可能性や、高い安全性・良質なモノを作る企業を育てることがアピールできている。」

中・高・大学生のための株式学習コンテスト

# 第16回日経STOCKリーグ結果発表



愛媛県立  
松山東高等学校 1年

メンバー：杉田 ひな子さん、西野 沙耶さん、今村 千香さん  
担当教員：三好 千聖さん

レポートタイトル

## Real × Future

～“質感”で彩る未来～

### 企業に投資することは、自分の考えるより良い未来へ投資すること。

私たちが学んだことは大きく分けて二つある。一つは、「企業」という大きなままとりの中に誇りを持って働く一人一人の社員の姿を見ることができたことだ。私たちの班はたくさんの企業へアンケートを送らせていただいた。その中で最も感銘を受けたのは、商品に対する熟慮や顧客への誠実な態度だ。私たちのたった1、2行の質問に1ページほどにわたってびっしりとお返事をしていただいたことは感動した。アンケートの回答では全ての企業が消費者視線を重視し、自社で開発される商品の質感に相当

こだわり、自信が見られた。確かにうわべは真似できても、芯地や味わいは真似できない。そして二つ目は、「私たちの行動が社会につながっている」と実感できたことだ。選んだ企業の株を買ったときや株価が上下するのを見ていたとき、とてもわくわくした。また、小さな出来事やニュースにも敏感に反応する株価を見てみると、「私たちの行動が株価に影響を与えることがある」と感じた。私たちの行動は、社会という大きな海の前ではほんの小さなさざ波のようなものかもしれない。それでも、周りを巻き込んで進む

うち、徐々に大きな波となり、社会を変える力になるのだと思う。この先2016年からは、未成年を対象とした年間80万円までの投資枠が非課税となる「ジュニアNISA」の制度が始まる。2015年6月には、公選選挙法の一部改正により選挙権が与えられる年齢が満18歳以上に引き下げられた。選挙年齢、ジュニアNISA、さらにこの日経STOCKリーグの学習。私たちは、これらは全て「頭張れ、日本の若者！」というエールだと受けとめている。だからこそ、与えられたこのチャンスを生かし、社会の問題を主体的に考え

行動を起こしていく必要があると思う。最後に、株式投資において、「損を少なく、利益を多く」という考え方は非常に大切なことであり、その視点を忘れてはならない。しかし、ただお金を儲けようというだけではなく、株式投資によって企業を応援し、経済を支え、社会をより良い方向へ変えていくことができれば、それは素晴らしいことだと思う。未来を創る世代である私たちはこの思いを大切に、経済と積極的に関わってきたい。  
(最優秀賞受賞レポートより抜粋)

<p><b>部門優秀賞 中学部門</b></p> <p>筑波大学附属駒場中学校 3年 メンバー：藤田 駿平さん、原田 陽太さん、松本 大空さん、中野 真希さん、藤田 大野 新さん</p> <p>Made by Japan ～あなたの知らない日本のすこ～</p>	<p><b>部門優秀賞 高校部門</b></p> <p>筑波大学附属駒場高等学校 1年 メンバー：大寺 一雄さん、上野 聖之さん、内海 実希さん、藤田 真希さん</p> <p>POWER OF RESILIENCE ～災害に強い日本を作る企業～</p>	<p><b>部門優秀賞 大学部門</b></p> <p>同志社大学 3年 メンバー：川藤 優希さん、中西 聖人さん、尾方 秀樹さん、上田 碧希さん、西澤 沙耶さん</p> <p>新近江商人企業 ～三方よしから広がるサステナビリティの秘訣～</p>	<p><b>NOMURA Award</b></p> <p>野村グループより特別協賛社賞を授与 この日経STOCKリーグで、金融教育普及に貢献した企業様を表彰いたします。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

株式を学ぶことで、社会の動きを知り、考える力を磨いた。「日経STOCKリーグ」。これまでのべ9万人以上の若者が株式を通じて、生きた経済にふれてきました。参加者は3～5人のチームで、世界・日本・地域の未来を想像し、個性豊かな投資テーマを決め、応援したい会社を選び、ポートフォリオを構築していきます。今回は、全国から1,429チーム、5,587人が参加。インターネットを活用した「バーチャル株式の体験学習」や各自の投資テーマに沿ったポートフォリオづくりなどを通じて、生きた経済にふれ、社会を見る目を養い、自ら学んでいく力を身に付けていきました。

- 名古屋大学教育学部附属中学校 3年——どうしてYOU選地元にいるの?——地域貢献企業の社会貢献と実践
- 静岡県立桜丘高等学校 1年——APPEAL THE BEST GREEN TEA'S FROM MAKINOHARA——産地直産茶と地域活性化
- 法政大学 2・3年——自覚め投資家先を認め経営者資本主義4.0の未来へ
- 愛知県立愛知商業高等学校 3年——Welcome to 昇龍道——日本の未来は誰の手に
- お茶の水女子大学附属高等学校 2年——Saving of the people, by the people, for the people——STOCKリーグから

**金融担当大臣賞が 牧島 かれん氏より授与されました。**  
【環境経済内閣府大臣秘書官(金融担当賞)】

——牧島 かれん氏からのコメント——

日経STOCKリーグに参加されたことで、ダイナミックに動く経済を感じ、同時に、今の日本が直面する様々な課題が見えてきたのではないのでしょうか。4月からジュニアNISAが始まり、これからの時代は個人として資金運用を営むことが必須になってきます。若い世代のみならずには、今後とも金融に深く親しみながら、新しい視点やチャレンジ精神をもって日本経済を次のステージへ進める原動力となっていただきたいです。

**海外に負けない、人と企業を育てる** 吉野 直行氏

日経STOCKリーグは、株式市場が今のように動いているのを学ぶ、とても良い機会です。年々、参加されるみなさんのレポートの質は向上していると感じています。そうした優秀なレポートを書き上げたみなさんに、さらに勉強してほしいことがあります。それは世界経済の動向です。なぜなら、株式市場においては外国人を含めた一億の投資家たちとの競争となり、個人として強い資金運用をする必要があるからです。また、今回の受賞レポートにもありましたが、グローバルな市場だけでなく、地方創生も重要で、さっさとみなさんの地元を元気にしようという気風があるはずなので、ぜひ注目してほしいと思います。

最近では、「フィンテック」という言葉がよく聞かれますが、日本経済のさらなる発展のためには、成長分野あるいは新しい事業へチャレンジしている起業家たちへの積極的な投資が重要となってきます。例えば、高齢化の問題に直面する日本では、介護用のロボット開発や世界の一大産業に育てられる可能性を持っているのです。これからは投資の知識を蓄え、様々なターゲットに目を向けた資金運用をめざしてほしい。さらに英語力の向上などを通じて、ぜひ日本のリーダーとして海外でも活躍していただきたいと期待しています。

### 特別協賛：野村グループ

投資学習コンテスト最優秀賞

松山東高生3人、県が表彰



愛顔のえひめ賞を受けた松山東高生  
＝14日午後、県庁

県は14日、2015年度の経済・株式投資学習コンテスト「日経STOCKリーグ」で全国1429チームの中から最優秀賞に輝いた松山東高校の2年生3人に「愛顔(えがお)のえひ

め賞」を贈った。受賞したのは杉田ひな子さん(16)、青野沙耶さん(16)、今村千春さん(16)。リーグは中高大学生が対象。投資テーマを決め、仮想資金500万円での銘柄

柄をどんな割合で保有するかといったポートフォリオ(資産構成)を構築してリポートにまとめる。

3人は「情報が進み、実体を持たないバーチャルなものが増えるほど逆に質感の大切さが認識される」と予測し、食料品や繊維製品、紙・パルプ製造など20社に保有株式を絞り込んだ。

県庁で中村時広知事から表彰状を受け取った杉田さんは「経済は遠い世界だと思っていたが、身近なものとなっていてるのが分かって面白かった。将来はグローバル企業に進みたい」と語った。

(藤田恵)

(等倍)